

横山ゆずり作 「シラケ」

効果音 (教室のガヤ)

河田誠 静かに、静かにしてくださ〜い。今説明したように、文化祭の時の出し物を各クラスから一つずつ決めるんですが、何か意見ありませんか？…(FO)

女子 誠 ちよつと、村上君たち、おしゃべりやめなさいよ。今、ホームルームの時間でしょ。

村上浩 意見ありませんか？

河田、お前、ホームルーム委員なんだからさあ、適当に考えて決めといてくれりゃいいんだよ。なあ、みんな？

全員 「賛成」ほか同意の歓声。

誠 そんな…。「適当に」なんて言ったって、クラス全体の…。

効果音 (終業のチャイム)

浩 ほら、時間になっちまったよ。それじゃ、帰ろうぜ。

ナレーション ここは青春高校の1年生の教室です。2か月後に迫った文化祭での出し物が、なかなか決まりません。

女子 全く、村上君たちったら、いつだってああなんだから。出し物決まってないの、内野クラスだけよ。どうするの、河田君？

誠 そうだな。僕、明日までに何か考えてくるよ。

浩 おい河田、あのなー、おれ今日ちよつと用事あんだけど、掃除当番代わりに頼むよ。な？ じゃあな。

女子 人に物頼むときだけは調子いいんだから。あの人、「用がある」なんてウソに決まってるわよ。河田君も黙ってないで、言い返してやればいいのに。

誠 僕は別に構わないよ。どうせヒマなんだから。

女子 もう！ お人よしねえ。

効果音 (喫茶店の中)

山崎努 よう浩、早かったな。

浩 ああ。掃除当番、河田のやつに押し付けてきたんだ。

努 河田もバカだよな。おれたちが掃除サボって茶店行くの知ってて、当番代わってくれるんだもん。いい子ぶっちゃってよ。今日のホームルームの時だって、偉そうによ。

浩 ホームルーム委員なんてクラスの雑用係なのによ。分かってねえんだよな、あいつ。(嘲笑)

ナレーション 彼、村上浩は、ホームルーム委員の河田誠とは中学時代からの同級生でしたが、成績が良く、穏やかな性格の誠は、浩にとっては少々煙たい存在で、特に親しく話したこともありませんでした。浩は、高校に入ってから、中学の時に好きだったサッカー一部にも入らず、ことに最近では、遊び仲間の山崎努たちと、喫茶店に入り浸る毎日でした。そんなある日――。

浩 へえ、これか、文化祭の劇で使う大道具ってのは。

努 ふーん。浩、ちよつと持ち上げてみるよ。

浩 よし。おっ、割と重いぜ、これ。あ！

効果音 (ガタガタッと崩れ落ちる音)

努 あー、やっちゃまった。おれじゃないからな。

浩 お、お前が「持ってみろ」って言ったから…。

努 人が来たらヤバいぜ。早く行っちゃまおう。——あ、河田…。

誠 君たち、これは…。

浩 (言い訳がましく)わ、わざとじゃないんだ。少し触ったら、ガタガタつきちまって…。

効果音 (ドアの開く音。生徒たち入ってくる。)

女子 あら、どうしたの、河田君たち？ (壊れた大道具に気づいて)あ、何よ、これ、メチャメチャじゃない。一体だれがこんなひどいことを？

全員 「ワー、ひどい」「だれだよ？」など。

女子 山崎君たちなの？ そうでしょう。

努 冗談じゃない。おれじゃねえよ。

女子 それじゃ、村上君なの？

浩 おれは…。(ためらいながら)おれが来た時には、もう壊れてて、それで…、河田がそばにいたんだ。

女子 河田君が?!

男子 おい河田、本当なのか？ お前が壊したのか？

誠 …ごめん。立てようとしたら、ついうっかり手が滑って…。本当にごめんよ。僕、すぐに直すから。

男子 「ついうっかり」じゃないよ。これ作るのに、みんなどれほど頑張ったか、お前が一番よく知ってるだろ。それに、文化祭まであと2週かしかないんだぞ。

全員 (口々に)「そうよそうよ」「どうしてくれるんだよ」「なんとかしてよ！」など。

ナレーション みんなの責め立てる声と、そのたびに「ごめん」「ごめん」と謝る河田誠の音が、いつまでも浩の耳に残って離れませんでした。

効果音 (喫茶店)

努 なんだって？ 大道具を直すの手伝うって？ 浩、お前、本気で言ってるのかよ？

浩 ああ。だって、本当は壊したの、おれだもんな。

努 バカだな、浩。河田が「自分がやった」って言ってるんだから、それでいいじゃないか。それに、今お前が手伝いにいったりしたら、おれまで疑われるかもしれないんだから。な、やめとけよ。大丈夫だよ。河田のやつ、だれにも言いつけやしないよ。あいつは何言ったって怒ったりしないんだから。

浩(モノローグ)(エコー)違うんだ、おれが言ってるのは。だれかに言いつけるとか、そんなことじゃないんだ。河田、お前、どうして「自分がやった」なんて言ったんだ？ おれがやったって知ってて…。おれは、お前に、自分のやったことをなすり付けたんだぞ。それなのに、どうして怒らないんだ?! どうして平気な顔してられるんだ？ 善人ぶってるだけなのか？ おれに恩を着せようっていうのか？ それとも…？

ナレーション 浩には、自分をかばって、代わりに責任を取った河田の気持ちが理解できませんでした。それが純粹に河田の好意から出たことだとは、素直に受け取れなかったのです。しかし、月日がたっても、この出来事を、浩は忘れてしまうことができませんでした。

それから数か月たったある日——。

効果音 (クラスのヒソヒソ話)

浩 おい、どうしたんだよ？ 何かあったのか？

男子 あ、村上。実は山崎の時計が盗まれたらしいんだ。なんでもスイス製の、特別注文したやつで、エライ高級品らしいぜ。

女子 ねえ山崎君。もう一度よく思い出してみて。さっきの体育の時間に、どっかへ置き忘れたんじゃないの？

努 そんなはずないよ、絶対。えーっと、体育の授業の前に更衣室に置いて、それで授業終わって戻ってきたら、もうなかったんだ。あれ、おやじのなんだよ。黙って持ってきたんだ。「取られちゃった」なんて言ったら、ブツ飛ばされるよ。

男子 落ち着けよ。思い出せないのか？ お前が戻る前に、更衣室にだれかいたとかさ。

努 えーと、いや、別にだれもいなかった。——あ、そうだ。浩、浩のやつ、今日の体育、見学してたよな。あいつだよ。おい浩、おれの腕時計、どこやったんだよ？

浩 な、なんだよ、いきなり。おれは知らないよ、時計なんて。

努 しらばくれるなよ。もう分かっているんだからな。

男子 そう言えば、体育の時間、見学してたの、浩だけだぞ。

女子 本当なの？ 村上君、どうなのよ？

浩 おれじゃないってば。本当だよ。そんな…。証拠あるかよ？

努 分かるもんか、浩の言うことなんて。あんな、人に責任押し付けるようなやつ。去年の文化祭の時、大道具壊したのだって…。

誠 (さえぎるように、強く) やめろよ！ 本人が「違う」って言ってるじゃないか。どうして信じてやらないんだよ。同じクラスの仲間じゃないか。

効果音 (ドアが開く)

先生 どうした？ 河田が大きな声を出すなんて珍しいな。

女子 あ、先生。実は、山崎君の時計が…。

先生 時計？ そう言えば、わたしも1つ落とし物の時計を預かっているんだが、山崎、これじゃないか？

努 あ、おれの。先生、これ、どこに？

先生 洗面所に置き忘れてあったのを、用務員さんが届けてくださってね。

効果音 (乱暴にドアを開け、走り去っていく足音)

全員 (口々に)「あ、村上君」「待てよ、村上」

先生 どうしたんだ、村上？

誠 僕、行ってみます。

浩(モノローグ) チキショー、チキショー！ みんなおれを泥棒扱いしやがって。赦すもんか。どんなに誤ったって、赦すもんか！

誠 こんな所にいたのか。みんな心配してるぞ。

浩 河田、何しに来たんだ。ほといてくれよ。みんな、都合のいい時だけ友達ヅラしやがって。お前だってそうだろう。いい子ぶるなよ。おれなんかかばうことなかったんだ。あの時だって、そうさ、あの時だって、おれがやったってはっきりみんなに言えばよかったのに。あいにくおれはお前みたいな善人じゃないからな。絶対赦さない。

誠 僕は赦したよ。

浩 え？

誠 僕は君を赦したよ。文化祭の時のことなんて、もうなんとも思っちゃいないさ。自分が赦された大きさに比べたら、他人のしたことを赦すなんて、ちっぽけなことさ。

浩 「赦された」って、お前がか？ 一体だれに？！

誠 イエス・キリストにさ。

浩 なんだ、お前、クリスチャンなのか。(間)ふん、キリスト教の説教なんて聞きたくないぜ。

誠 赦されたのは、僕だけじゃない。村上、君だって。言いや、すべての人間の罪を赦すために、イエス・キリストは身代わりに十字架にかかってくださったんだ。

浩 …おれも入ってるのか？

誠 もちろんだよ。聖書にはっきり書いてあるんだ。「キリストの打ち傷の故に、あなた方はいやされたのです」って。

浩(モノローグ)(エコー)「キリストの打ち傷の故にいやされた」？ キリストの打ち傷の故に…。

聖書朗読 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。(ペテロの手紙第一 2:22-24)

<完>